

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		千葉 茂		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111																							
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																					
工業	工業専門課程		環境・バイオ科			平成22年文部科学省 告示第153号		—																					
学科の目的		常に新鮮な人材を必要とされる社会に対応し、専門の知識と技術を身につけ、技術者としての実力を蓄え、社会の中堅となる人材を養成することにある。環境・バイオ科では、企業との連携を密にすることにより、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とする。																											
認定年月日		平成26年3月31日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																					
2	昼間	1740時間	720時間		0時間	1080時間	0時間	0時間																					
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数																					
80人		71人		4人		2人		6人																					
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日				成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																							
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月31日～9月3日 ■冬季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月17日～3月31日				卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																							
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) (株)コーセー・(株)水ing・ハイム化粧品(株)等 ■就職指導内容 就職ガイダンス等において履歴書やエントリーシートなど就職受験書類添削の指導を実施。随時、個別面談を行う。 就職模擬試験(筆記試験)と模擬面接を実施。 ■卒業生数 40 人 ■就職希望者数 31 人 ■就職者数 30 人 ■就職率 96.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 75.0 % ■その他 ・進学者数： 9人 ・東京工科大学応用生物学部編入 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>有機溶剤作業主任者技能講習</td><td>①</td><td>43 人</td><td>41 人</td></tr><tr><td>ビジネス能力検定3級</td><td>③</td><td>48人</td><td>45 人</td></tr><tr><td>品質管理検定4級</td><td>③</td><td>31人</td><td>28人</td></tr><tr><td>低圧電気取扱者</td><td>①</td><td>28人</td><td>28 人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	有機溶剤作業主任者技能講習	①	43 人	41 人	ビジネス能力検定3級	③	48人	45 人	品質管理検定4級	③	31人	28人	低圧電気取扱者	①	28人	28 人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
有機溶剤作業主任者技能講習	①	43 人	41 人																										
ビジネス能力検定3級	③	48人	45 人																										
品質管理検定4級	③	31人	28人																										
低圧電気取扱者	①	28人	28 人																										
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 平成28年4月1日時点において、在学者84名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者80名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。				■中退率 4.8 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ※有の場合、制度内容を記入 片柳学園創立70周年記念奨学金 ■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																												
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/departmen/technology/biotechnology/																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		(1)教育理念・目標	
(2)学校運営		(2)学校運営	
(3)教育活動		(3)教育活動	
(4)学修成果		(4)学修成果	
(5)学生支援		(5)学生支援	
(6)教育環境		(6)教育環境	
(7)学生の受入れ募集		(7)学生の受入れ募集	
(8)財務		(8)財務	
(9)法令等の遵守		(9)法令等の遵守	
(10)社会貢献・地域貢献		(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流			
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。地元大田区の地域団体・企業・高校に対して密接に積極的に交流を図ってもらいたいという意見を反映するため、環境・バイオ科の教員と学生が大田区の各種イベントにボランティアとして参加し、地域活動に貢献できるよう今後もその機会を増やして行く。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興 協会)教育事業部教育推進グループセクション チーフ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ /デザイン企業 等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事 務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセ ンター長 進路指導副部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	学校関連
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())【公表日:平成29年9月7日】 URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/23390/28_jikohyouka_neec.pdf http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/23390/29_kankeishahyouka_neec.pdf			
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針			
教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。 また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。			
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの項目		学校が設定する項目	
(1)学校の概要、目標及び計画		学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画	
(2)各学科等の教育		目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿	
(3)教職員		教員・教員組織	
(4)キャリア教育・実践的職業教育		就職等進路、学外実習・インターンシップ等	
(5)様々な教育活動・教育環境		施設・設備等	
(6)学生の生活支援		中途退学への対応、学生相談	
(7)学生納付金・修学支援		学生生活、学納金	
(8)学校の財務		財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書	
(9)学校評価		学校評価	
(10)国際連携の状況			
(11)その他			
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)情報提供方法			
URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/23390/29_opendata_neec.pdf			

授業科目等の概要

(工業専門課程 環境・バイオ科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル	社会人として必要とされるビジネススキルを身につけます。	1後	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザインI	専門教育を生かしたキャリアデザインを考えます。	1後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習1	スポーツを通じ心身を鍛え人間力を高めます。	1後	30	1			○		○	○		
○			パソコン実習	文章入力、表計算グラフ作成、統計処理などの基礎的なパソコンの使い方を学びます。	1前	60	2			○	○			○	
○			基礎数学	化学実験の結果の整理と理解に必要な数学的手法の基礎を学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			基礎化学	物質の性質と成り立ちを学び化学反応式等の基礎を学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			基礎生物学	生命の成り立ちなどの理解に必要な生物学の基礎を学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			無機化学	無機化合物の化学構造と性質、化学反応式を学びます。	1後	30	2	○			○			○	
○			有機化学	有機化合物の構造と性質および反応の基礎を学びます。	1後	30	2	○			○		○		
○			分析化学 1	酸・塩基反応、緩衝液、酸化・還元反応について学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			生化学	生体を構成し、生命の維持に働く物質の構造と性質を学びます。	1後	30	2	○			○		○		
○			微生物学	微生物の基本的な性質や細胞の成り立ちなどを学びます。	1後	30	2	○			○		○		
○			化学実験の考え方	実験の基本的な注意事項や実験の仕組みやパソコンを用いたレポートの作成の仕方を学びます。	1前	30	2		○		○		○		
○			試薬と安全管理	試薬の安全な取り扱い方と管理方法を学び、技術者倫理を育てます。	1後	30	2		○		○			○	
○			環境と社会	現在の環境とその改善・保全の仕方を学び、技術者倫理を育てます。	1後	30	2		○		○			○	
○			品質管理	品質管理に対する知識を習得すると共に、品質管理に関する倫理、能力、改善能力を高めます。	1前	30	2		○		○			○	
○			化学実験	化学実験において必要となる化学実験の基礎知識と基本操作を習得します。	1前	120	4			○	○		○	○	
○			生物・化学実験	生命環境に関わる物質の分析原理、分析手法や反応化合物の合成などを習得します。	1後	120	4			○	○		○	○	
○			微生物学実験	微生物の取り扱い方を習得し、品質管理や生物反応による物質の変換技術を学ぶ基礎を習得します。	1後	120	4			○	○		○	○	
○			生化学・分析実験	分析化学における実験操作の基本を学び、物質の定性的、定量的分析手法を習得します。	1前	120	4			○	○			○	○
○			統計学 1	化学実験で得られる数値データの統計処理とその考え方について学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			統計学 2	化学実験で得られる数値データをExcelなども用いながら統計解析について学びます。	1前	30	2	○			○		○		

